

第三級海上特殊無線技士試験問題

無線工学

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

1. 周波数が高くなるほど、波長は短くなる。
2. 単側波帯(SSB)方式に用いられる変調は、周波数変調である。
3. 無線電話の単信方式では、一般に、一基のアンテナを送信と受信に共用している。
4. DSB方式の無線電話装置は、プレストークボタンを押すと受信状態になり、離すと送信状態になる。
5. 超短波(VHF)帯では、通常、送受信アンテナを高くするほど通信のできる距離が延びる。
6. 電離層の状態は、昼間と夜間又は季節等によって変化しない。
7. 同じ種類の電池を並列に接続すると、高い電圧を得ることができる。
8. 給電線とは、送受信機を接地(アース)するための導線のことをいう。
9. 超短波(VHF)帯の電波を用いる通信では、主として直接波が利用される。
10. 船舶用レーダーは、距離レンジを切り替えたとき、距離目盛りの大きいレンジほど測定誤差が大きい。